

協会活動概要(2025 年 3 月末現在までの最新一年間)(日本語)

団体名 (ドイツ語表示)	千葉県日独協会 Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba
住所	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 556-12 植松健方 TEL : 047-385-1456 / 080-3416-7827 FAX : 047-385-1456 E-mail : info@jdg-chiba.com
役員	会長：木戸 裕 専務理事兼事務局長：植松 健 常任理事：勝見 浩明、坂田 博、竹内 優、土屋 有里、本間 実里、本橋 緑 理事：秋草 史幸、安藤 永一、石元 成子、大野 亘児、岡村 三郎、小原 陽子、 神田 基成、木戸 芳子、木戸秋 圭一、草本 晶、桑原 純子、笹生 健司、佐藤 守彦、 田草川 敏朗、内藤 敏子、中村 孝子、成田 久江、藤川 義弘、保坂 有里奈、 堀江 弘隆、松浦 一、松江 美代子、宮藤 宏、三輪 瑛、室田 真由見、山田 浩輝、 山本久瑠実 監事： 中野 泰行 湯浅 正人
会員・会費	法人会員：5 社 個人会員：115 名（内：名誉会員 3 名、家族会員 6 名、学生会員 5 名） 法人：1 口 10,000 円 / 年 個人：3,000 円 / 年 家族及び学生会員：1,500 円 / 年 入会金：2,000 円
設立年月日	1996 年 6 月 1 日
特記事項 活動内容	特記事項： 2024 年度、対面式で開催する行事についてはコロナ禍以前と同水準まで回復し、ほぼ予定通り実施できた。 2025 年度も打ち合わせや青壮年部の講演会など、オンライン (Zoom) のメリットを最大限活かし、対面式には固執せず引き続き臨機応変に併用する予定。 2026 年の創立 30 周年に向けて、具体的準備を始動。 活動内容： 1. 主な会議 (ア) 運営委員会 (原則月 1 回) (イ) 理事会(原則年 1 回) (ウ) 年次総会 (エ) 編集会議(隔月)、青壮年部会(隔月)、その他 2. 定例行事 (ア) 総会記念講演会 (イ) ビール祭り(実施せず) (ウ) ドイツ軍人慰霊祭(昨年は、第 30 回) (エ) クリスマス会、忘年会(実施せず) (オ) 新春講演会 3. 文化・教養行事 (ア) ドイツ語講習会 対面方式またはオンライン

(イ) ドイツ語入門研究会(オンライン)

(ウ) 青壮年部会 (部会は原則、隔月・偶数月に開催)

① 下記研究会及びテーマから『Die Eiche』への寄稿、オンライン講演会や部会(談話形式)開催等、実施可能な範囲で活動

- ドイツ歴史研究会(ボトルシップ研究会を含む)
- 日本語/日本文化研究会
- ドイツ語/ドイツ文学研究会
- ドイツ地誌研究会
- ドイツ時事問題
- 音楽関連

② 対外交流(ドイツ人との交流含む)の活性化(運営委員会と連携して)

③ 会員の入会促進活動(運営委員会と連携して)

④ SNS の活用(Facebook 及び Instagram を公開中)菩提樹委員会 植樹先の現地調査、報告

(エ) 津田沼高校オーケストラ部演奏会後援(実施せず)

(オ) 習志野第九合唱団定期演奏会後援

4. 特別行事

(ア) 親睦旅行(国内) 会員懇親の機会の設定(実施せず)

(イ) 県内日独関係機関との関係強化とその行事への協力

① 船橋市民活動サポートセンター：協会活動の展示等

② 国際フェスタ千葉：協会活動の展示等

③ 市川ドイツデー：協会活動の展示等

④ 習志野ドイツフェア：協会活動の展示等

⑤ 習志野国際交流協会・船橋国際交流協会・市川市国際交流協会との連携

(ウ) 県内大学等へのドイツ人留学生との交流

希望する留学生があり、条件が折り合えば引き続き検討

(エ) Akablas (Braunschweig 工科大学ブラスバンド)の日本ツアーサポート(麗澤大)

(オ) ドイツ語圏研修旅行(実施せず)

(カ) デュッセルドルフ奨学生歓迎会(10 月 22 日)

(キ) 2026 年の創立 30 周年記念事業に向けての準備開始

5. 千葉県日独協会通信『Die Eiche』の発行

原則 2 か月に 1 回偶数月に発行・発送(原則奇数月の第 2 土曜に編集委員会開催)

6. 千葉県日独協会の情報発信のあり方の検討

2013 年以降、当協会の会員への情報発信として、協会通信『Die Eiche』に加え、ホームページ(HP)を開設。2023 年には SNS(Facebook 及び Instagram)を公開し、活用を始めている。2024 年に広報委員会を設置、今後の情報発信のあり方について、総合的改革を目指して引き続き活動していく。

7. 全国日独協会連合会との関係強化

(ア) 総会・パートナーシップデイズ・懇談会サロンその他行事への協力・参加。

(イ) 日本国内の日独協会との関係強化・情報共有

8. 独日協会アム・ニーダーラインとの交流(千葉県国際課との連携)

マイト会長が奨学生を引率し来日、歓迎会を実施。